

『本願寺 函館別院』

全国の別院シリーズ その2

1860(万延元)年、開教活動に従事していた堀川乗經師の自坊の名称を使用した「願乗寺休泊所」を「本山掛所」とすることについて幕府より許可され、さらには、これを「本願寺掛所」と称しました。

そして、ついに1877(明治10)年には、明治政府の許可を得て、「本願寺函館別院」と公称することとなりました。



函館別院本堂

質の煉瓦建築による本堂が再建されましたが、1934(昭和9)年の大火によって一切の建物を焼失し、長く仮本堂の時代が続きました。

1950(昭和25)年9月12日、本願寺第23代宗主勝如上人より「函館別院復興に際しての消息」が発布され、これを契機として崇敬寺院住職、僧侶、別院門信徒が一丸となり、同年に旧本堂が完成しました。



函館別院 (明治期本堂)

1872(明治5)年に建立の本堂は翌年焼失し、1877(明治10)年に再建されました。しかし、その本堂も1899(明治32)年の火災で焼失し、1907(明治40)年には、書院、庫裏などのすべてが灰塵に帰しました。

その後、これらの経験をふまえて、同年には不燃



函館別院旧本堂

*送迎マイクロバスを運行します。



講師 久留島法曉師(広島市安佐北区落合圓正寺)

朝席：午後一時半

「安居会（夏の法要）」(善教寺本堂)

六月二十五日(土) 朝席：午前十時

*仏教婦人会主催行事

「初参式」(善教寺本堂)

五月二十九日(日) 午前九時半～(約一時間)

*毎月十六日に本堂において勤めております。
*永代経法要の昼席にてお勤め致します。

五月十六日(月) 午後一時半

門信徒祥月命日法要(善教寺本堂)

「宗祖聖人月忌・

